

坂出市在宅介護実態調査結果からの傾向と課題

ページ	結果の概要	傾向と課題	主な対応策
	1 基本調査項目		
	(3) 主な介護者の本人の関係		
P5	「子」が61.4%と最も割合が高くなっている。次いで「配偶者」が25.4%、「子の配偶者」が5.6%となっている。 令和5年度調査と比較すると「子」が8.6ポイント増加し、「子の配偶者」が8.8ポイント減少している。	子が5割以上となっている。	・在宅生活支援の充実
	(4) 主な介護者の性別		
P6	「女性」が68.0%と割合が高くなっている。 令和5年度調査と比較すると、大きな変化はない。	女性が約7割となっている。	・在宅生活支援の充実
	(5) 主な介護者の年齢		
P7	「60代」が37.6%で最も高くなっている。次いで「50代」、「70代」がともに23.9%、「80歳以上」が7.1%となっている。 令和5年度調査と比較すると、「50代」が4.0ポイント、「80代」が4.7ポイント減少し、「70代」が3.8ポイント増加している。	50代～70代が多い。	・在宅生活支援の充実
	(6) 主な介護者が行っている介護		
P7	「その他の家事（掃除、洗濯、買い物等）」が78.2%と最も高く、次いで「外出の付き添い、送迎等」が76.6%、「金銭管理や生活面に必要な諸手続き」が66.5%となっている。 令和5年度調査と比較すると、「服薬」が12.2ポイント、「食事の準備」が9.3ポイント減少し、「金銭管理や生活面に必要な諸手続き」が8.0ポイント増加している。	掃除、洗濯、買い物、外出補助、金銭管理、食事の準備が多い状況である。	・在宅生活支援の充実
	(7) 介護のための離職の有無		
P10	「介護のために仕事を辞めた家族・親族いない」が88.3%と最も割合が高くなっている。次いで「分からない」が4.1%、「主な介護者が仕事を辞めた（転職除く）」が3.6%となっている。 令和5年度調査と比較すると、大きな変化はない。	主な介護者が仕事を辞めた割合が3.6%となっている。	・在宅生活支援の充実
	(8) 保険外の支援・サービスの利用状況		
P11	「利用していない」が77.4%と最も高くなっている。次いで「配食」が9.6%、「外出同行（通院、買い物など）」が4.6%となっている。 令和5年度調査と比較すると、大きな変化はない。	保険外サービスを利用していない割合が高く、配食や外出同行などの利用の割合は低い。	・在宅生活支援の充実 ・「坂出ささえまるネットワーク」の充実

ページ	結果の概要	傾向と課題	主な対応策
	(9) 在宅生活の継続のために充実が必要な支援・サービス		
P12	「特になし」が49.8%と最も高くなっている。次いで「移送サービス（介護・福祉タクシー等）」が18.0%、「外出同行（通院、買い物など）」が15.9%となっている。	充実が必要な支援・サービスについて特になしの割合が約5割となっているが、移送サービス、外出同行、配食等のサービスなどの希望がある。	・在宅生活支援の充実 ・「坂出ささえまるネットワーク」の充実
	令和5年度調査と比較すると、「外出同行（通院、買い物など）」が2.6ポイント減少し、「移送サービス（介護・福祉タクシー等）」が4.8ポイント増加している。		
	(10) 施設の検討状況		
P13	「検討していない」が76.6%と最も割合が高くなっている。次いで「検討中」が13.8%、「申請済み」が7.1%となっている。	施設の検討を行っていない割合が高いことから、在宅生活の希望が多いと考えられる。	・在宅生活支援の充実 ・「坂出ささえまるネットワーク」の充実
	令和5年度調査と比較すると、大きな変化はない。		
	(11) 本人が抱えている疾病		
P14 P15	「認知症」が27.2%と最も割合が高くなっている。次いで「糖尿病」が22.6%、「筋骨格系疾患（骨粗しょう症、脊柱管狭窄症等）」が20.5%となっている。	患っている疾病は多岐にわたっている。	・介護予防の充実 ・高齢者の社会活動の支援 ・在宅医療・介護連携の推進
	令和5年度調査と比較すると、「悪性新生物（がん）」が4.9ポイント、「変形性関節疾患」が9.7ポイント、「認知症」が4.6ポイント、「糖尿病」が3.4ポイント増加している。		
	(12) 訪問診療の利用の有無		
P16	「利用していない」が91.2%となっている。	訪問診療を利用している割合は低い。	・在宅医療・介護連携の推進
	令和5年度調査と比較すると、「利用していない」が4.0ポイント増加している。		
	(13) 介護保険サービスの利用の有無		
P17	「利用している」が79.9%となっている。	介護保険サービスを利用している割合が高い。	・持続可能な介護保険制度運営
	令和5年度調査と比較すると、大きな変化はない。		
	(14) 介護保険サービスの未利用の理由		
P18	「本人にサービス利用の希望がない」が40.0%で最も割合が高くなっている。次いで「現状では、サービスを利用するほどの状態ではない」が35.6%、「家族が介護をするため必要ない」が17.8%となってい	介護保険サービスを利用している割合が高い。	・持続可能な介護保険制度運営
	令和5年度調査と比較すると、「本人にサービス利用の希望がない」が7.3ポイント、「サービスを受けたいが手続きや利用方法が分からない」が5.5ポイント減少し0.0%となっている。一方、「現状では、サービスを利用するほどの状態ではない」が8.3ポイント、「家族が介護するため必要ない」が8.7ポイント増加している。		

ページ	結果の概要	傾向と課題	主な対応策
	2 主な介護者様用の調査項目		
	(5) 今後の在宅生活の継続に向けて、主な介護者が不安を感じる介護		
P26	「認知症状への対応」が26.5%と最も割合が高くなっている。次いで「夜間の排泄」と「主な介護者に確認しないと、わからない」がともに23.0%、「日中の排泄」が18.5%となっている。	認知症状への対応、夜間の排泄、日中の排泄に不安を感じている割合が高い。	・在宅生活支援の充実 ・持続可能な介護保険制度運営
	令和5年度調査と比較すると、「入浴・洗身」が8.2ポイント、「外出の付き添い、送迎等」が6.9ポイント、「不安に感じることは、特にない」が7.8ポイント減少している。		
P39	【クロス集計結果（要介護度別）】 要介護度別にみると、「要支援1.2」では「主な介護者に確認しないと、わからない」が29.3%と最も割合が高く、「要介護1.2」では「夜間の排泄」が41.0%、「要介護3以上」では「夜間の排泄」と「主な介護者に確認しないと、わからない」がともに27.3%と最も割合が高くなっている。		
P40	【クロス集計結果（認知症自立度別）】 認知症高齢者自立度別にみると、「自立+Ⅰ」では「主な介護者に確認しないと、わからない」が30.0%と最も高く、「Ⅱ」では「夜間排泄」が41.1%、「Ⅲ以上」では「認知症状への対応」が57.1%と最も割合が高くなっている。		
	3 要介護認定データ		
	(4) サービス利用の組み合わせ		
P31	「通所系のみ」が37.7%と最も割合が高くなっている。次いで「訪問+通所」が26.3%、「未利用」が19.9%となっている。	介護度が上がったり、認知症自立度が下がったりすることに伴い、通所系と訪問系を併用する割合が高くなっている。	・在宅生活支援の充実 ・持続可能な介護保険制度運営
	令和5年度調査と比較すると、「訪問+通所」が8.9ポイント増加している。		
P43	【クロス集計結果（要介護度別）】 サービス利用の組み合わせを、要介護度別にみると、「要支援1・2」では「通所系のみ」が38.6%と最も割合が高く、次いで「未利用」が28.3%、「訪問+通所」が21.3%となっている。「要介護1・2」では「通所系のみ」38.4%と最も割合が高く、次いで「訪問+通所」が32.6%、「訪問系」のみが15.1%となっている。「要介護3」以上では「訪問+通所」が43.8%と最も割合が高く、次いで「通所系のみ」が31.3%、「未利用」が12.5%となっている。		
P40	【クロス集計結果（認知症自立度別）】 認知症高齢者自立度別にみると、「自立+Ⅰ」では「通所系のみ」が35.7%と最も割合が高く、次いで「未利用」が27.9%、「訪問+通所」が20.0%となっている。「Ⅱ」では「通所系のみ」が44.6%と最も割合が高く、次いで「訪問+通所」が34.9%、「訪問系のみ」が8.4%となっている。「Ⅲ以上」では「訪問+通所」が55.6%と最も割合が高く、次いで「通所系のみ」が22.2%、「小規模多機能」と「看護多機能」がともに11.1%となっている。		